

関西保育福祉専門学校

自己評価報告書

(2015(平成27)年度)

2016(平成28)年3月

学校法人濱名学院

関西保育福祉専門学校

目 次

I 教育目標		
1 学校	1
2 保育科	1
3 介護福祉科	1
II 2015(平成27)年度の事業計画	2
III 2015(平成27)年度学校経営重点目標	3
IV 取り組み及び評価の状況		
基準1 教育理念・目的・育成人材等	4
基準2 学校運営	5
基準3 教育活動	6
基準4 教育成果	8
基準5 学生支援	9
基準6 教育環境	10
基準7 学生の募集と受け入れ	11
基準8 財務	12
基準9 法令等の遵守	12
基準10 社会貢献・地域貢献	13

関西保育福祉専門学校自己評価報告書(2015(平成27)年度)

* 2016年2月学校自己評価実施

I 教育目標

1 学校

建学の精神である「以愛為園」を基調として、学生一人一人が保育士や幼稚園教諭、介護福祉士として必要な専門的知識や技能を身につけるとともに、教養の向上を図り、広く社会に貢献できる人材を育成する。

2 保育科

(1) 保育者としてのコミュニケーション能力を身につける

子ども、保護者、同僚、地域住民などの身近な人々と、目的や状況に応じたコミュニケーションをとることができる。そのために必要な傾聴、会話、説明、文章表現のスキルを身につける。

(2) 子どもの発達過程を理解し、発達に応じた関わり方を身につける

子ども一人一人の心身の発達や状況についての理論的な理解ができ、発達段階や状態に対応した関わりができる力を身につける

(3) 保育者としての表現力を身につける

ピアノの弾き歌いをする、音楽に合わせて身体を動かす、絵本を読み聞かせる、絵画を制作するなど、保育の場面での表現力を身につけ実践できる。

(4) 保育者としての規範意識を身につける

社会の規範を遵守し、同僚、保護者や地域住民から信頼されるような態度・表情、礼儀・常識を踏まえ子どものモデリングに対象となる行動がとれる。

(5) 子どもの疾病や事故への対応力を身につける

子どもの成長や安全を第一に考えつつ、事故や疾病に対する適切な処置が行えるための知識を有し、適宜対応ができる。

3 介護福祉科

(1) 介護者としてのコミュニケーション能力を身につける

「聴く、話す、書く」能力を身につけることにより、利用者や家族、チーム間での良好な人間関係を構築するために行動することができる

(2) 介護を実践できる基本的な専門知識・技術を身につける

利用者の日常生活上の課題を解決するために基本的な専門知識・技術を根拠にした介護

を実践することができる。

(3) 利用者の活動の可能性に着眼できる能力を身につける

利用者が現在している活動だけでなく、できる活動の可能性に着眼することで観察発見し、日常生活で利用者が持てる力を最大限に発揮できる介護実践ができる。

(4) 自らの介護実践について振り返る力を身につける

自分や他人の言葉や態度、状況を思い起こし、よりよいケアを実現するために、自らの介護実践について自分に問いかけ、改善していくことができる。

(5) 協働する力を身につける

他の職種の専門性を理解し、目標を共有して、ケアチームの一員としてリーダーシップ及びメンバーシップの役割を理解し行動することができる。

II 2015(平成27)年度の事業計画

事業内容

(1) 教育活動の充実

- ①教育目標定着に向けた取り組み
- ②入学前・入学直後における教育
- ③「ことば力」養成運動の展開
- ④実習実施方法の検討等
- ⑤魅力ある教科の設定
- ⑥教育課程編成委員会の開催
- ⑦自己点検評価及び関係者評価の実施

(2) 生徒に対する各種支援活動の推進

- ①各種資格取得に向けた支援事業の実施
- ②公務員対策講座の開催
- ③中途退学率低減対策の実施
- ④就職支援活動の充実

(3) 教育環境の整備

- ①留学生や社会人受け入れに向けた検討の実施
- ②施設設備等の近代化の促進
- ③図書館機能の充実
- ④第2次学校改善特別委員会の設置・運営
- ⑤保育科の適正定員の検討
- ⑥学生食堂の設置検討

(4) 職員の資質向上

- ①FDの推進
- ②各種研修会、大会等への職員の派遣
- ③研究体制の充実及び紀要の発行

(5) 広報活動の質的向上

(6) 卒業生への支援・連携の強化

- ①卒業生の状況調査の実施等
- ②卒業生に対する求人情報の発信
- ③同窓会員にかかる情報の収集等
- ④卒後研修会の実施

(7) 社会人向け事業の実施

- ①兵庫県が実施する「離職者等再就職訓練事業」
- ②介護技術講習会の開催

III 2015(平成27)年度学校経営重点目標

- 1 教員の資質の向上を目指し、学外への研修会の参加をはじめ、学内においては、アクティブ・ラーニング手法等の授業展開、評価方法、情報技術の向上などの教育技法研修などに取り組むとともに、効果的な公開授業の実施、シラバスの充実、研究紀要の年2回(9月、4月)発行に取り組む。
- 2 昨年度から取り組んでいる個々の到達すべき目標を明確化したベンチマーク及びループリックを有効に活用することにより、学生の社会的・職業的自立を図る。特に専門的職業人としての基礎的・基本的なコミュニケーション力、職業観・勤労観の育成、社会人としての礼儀、マナーを一年次までに身につけるよう指導する。
具体的には、入学時に目標をしっかりと持たせ、3日間連続して欠席した学生については、各科目担当者は担任に、担任は学科長に報告する。学科長は、その状況を把握するとともに、的確な指示を出す。その中で管理職に報告すべき学生については、事実を把握した段階で状況を報告する。
- 3 「中途退学者は出さない」を合い言葉に、きめ細やかな対応を実施する。
- 4 各教職員が取り組む目標設定(目標管理シート)について、到達目標に必ず担当職務としての目標を設定するとともに、到達目標を明確にする。また、学科長は適宜進捗状況の把握に努め、指導する。
- 5 広報活動については、教職員一人ひとりが対面広報を工夫し、参加者が話しやすい、相談したい、自分のことを考えてくれている、ぜひ本校に入学したいと思うように教職員一丸となって取組む。目標は、両学科ともにオープンキャンパス参加者の60%以上の出願を目指す。

IV 取り組み及び評価の状況

基準1 教育理念・目的・育成人材等

1 取り組みの状況

①理念・目的・育成人材像は定められているか

○学校法人浜名学院の建学の精神「以愛為園」(愛を以て園となす)を教育理念とし、教育を受ける者と教育を行う者がともに陶冶の道を歩みながら、人の心を受け入れる「受容の姿勢」と、他人に対する「思いやりの心」を人間形成の基盤とし、信頼と愛情の教育愛を具現化する学校づくりを行っている。

○専門的知識と技能、実践力を身につけた保育者、介護者を養成する教育機関として、具体的な育成人材像を学校教育目標に掲げるとともに、重点的に取り組む項目を4月当初に、学校経営重点目標として職員等に明示した。

②学校の特色は明確にされているか

○①資格の取得、②充実した教育環境と確かなサポート体制、③充実した実習カリキュラムと指導体制、④人間としての成長を見守る環境づくり、⑤就職希望者の全員就職と高い満足度という5つの特色を打ち出し、社会で求められる人材を育成している。

③理念・目的・育成人材像・特色などが学生・保護者等に周知されているか

○ホームページや広報媒体などで明示している他、入学前のオープンキャンパス等で学生・保護者に理念や専門的職業人の育成の説明を行っている。保護者に対しては入学前に保護者会を開催し、教育理念や教育目標、学校運営のしくみを説明している。学生には、毎年度当初のオリエンテーションにおいても説明をしている。

④各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか

○建学の精神「以愛為園」を基調として、保育科では、教育目標を明確化し、その達成目標においては文部科学省、厚生労働省が発信する情報に留意しつつ、実習先訪問や就職先訪問での施設長等の意見等も考慮し、教員の共通理解と支持を得て定めている。また、介護福祉科では、中期における基本方針及び教育目標に照らし合わせて、厚生労働省より提示された介護福祉士資格取得時の到達目標 11 項目と求められる介護福祉士像 12 項目を踏まえつつ、教員の理解と支持を得て定めている。

○校内で実施される、実習先の実習指導者等との反省会や懇談会での意見交換、実習先の実習指導者等との意見交換、教員の校外研修会への参加、教育課程編成委員会や学校関係者評議会での委員の意見を踏まえている。

○本校は、「職業に必要な最新の実務的な能力」の育成を目的に、企業などと連携して教育課程の編成や授業を展開する「職業実践専門課程」として文部科学大臣から認定された学校である。専門職業人として、真に役立つ力を身につけられる学校として、業界とのネットワークを最大限に活かし、実践的な学びを展開している。

2 評価

評価の観点	評価
① 理念・目的・育成人材像は定められているか	適切
② 学校の特色は明確にされているか	適切
③ 理念・目的・育成人材像・特色などが学生・保護者等に周知されているか	ほぼ適切
④ 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	適切

3 課題

- ③ 入学前のオープンキャンパス等では学生・保護者に理念や専門的職業人の育成の説明を行っているが、引き続き入学後も系統的かつ継続的に説明し、周知する必要がある。また、施設等にも理念や育成人材像を説明し、知ってもらう必要がある。

4 今後の改善方策

- ③ ホームページ等で保護者に向けて発信することを検討する。
③ 保護者、施設等には入学後も本校の実践を知ってもらう機会を設けることを検討する。

基準2 学校運営

1 取り組み状況

- ①目的等に沿った運営方針が策定されているか
○濱名学院において 2012 年度から取り組んでいる中期目標に沿い、本校においても、中期における基本方針及び運営目標を定めるとともに、これを各年度の事業計画、学校経営重点目標として具体化し、取り組みを推進している。
- ②教務・財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか
○本校は学校法人が運営する専門学校であり、意志決定に関する事項は、「寄附行為」、「組織規程」、「事務分掌規程」、「決裁規程」、「経理規程」、「運営会議規程」、「教員会規程」等により規定されている。
○意思決定システムは、上記の規程等により、各組織とその役割、権限、意志決定のプロセスなどが規定されている。
- ③教育活動に関する情報公開が適切になされているか
○年 3 回発行される学園だよりや時宜に応じて更新する学校のホームページ、学校案内パンフレットで教育活動に関する情報を公開している。
- ④業務の効率化が図られているか
○情報伝達の迅速化等業務の効率化を図るため、インターネット回線を整備するとともに校内 LAN を整備している。
○また、学籍や成績管理等教務業務の効率化を図るため、教務事務システムを導入しており、平成 24 年度からは新たなシステム(ソフト及びハード)に更新し運用している。
○上記のほか、図書システム、予算管理システム、決裁システム等を整備し、事務の効率化を図っている。

2 評価

評価の観点	評価
① 目的等に沿った運営方針が策定されているか	適切
② 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	適切
③ 教育活動に関する情報公開が適切になされているか	適切
④ 業務の効率化が図られているか	ほぼ適切

3 課題

- ④ 共有フォルダや学内メールの活用が徹底されていない(手書き記入のアンケート、委員会のレジュメ、配付資料等)。

4 今後の改善方策

- ④ 共有フォルダの使用についての共通理解と活用の方策について、学科、部会、委員会等で具体的な活用方法について検討し、教職員全員の共通理解が必要である。

基準3 教育活動

1 取り組み状況

- ①教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか

○保育科・介護福祉科の教育期間は2年間であり、幼稚園教諭養成機関及び保育士養成施設・介護福祉士養成施設として、養成機関指定基準等で規定された教科目を教育課程に組み込むとともに、各教科目における到達目標、指導計画、内容、評価方法等を明示したシラバスを作成し、講義概要としている。

- ②教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか

○2014年(平成26年)度、学生便覧に教育目標をベンチマーク方式で明示した。保育科、介護福祉科ともに5つの教育目標を掲げ、目標達成に向けて中項目を設けた。各中項目は、学生が具体的にどのようなことに、どう取り組めばよいかを3つのレベルで示すことで、目標達成に向けた主体的な学習ができるよう講義・演習・実習の工夫をしている。また、学生自身ができる自分を確認できるよう自己評価を10月と2月に実施した。2年生の2年間の評価結果は、保育科では自己評価点検(3段階)について、1年生(10月実施)では各項目平均1.3であったものが、2年生(2月実施)では、2.2に、介護福祉科では同じく、0.5から2.3へと高い学習到達結果となった。これは、1年生の結果を踏まえ、教員が到達点の低い学生に対して機会あるごとに個人指導してきた結果と見られる。

○2015年度から新1年生を対象に初年次教育を実施した。その内容は、職業人としての意識の醸成、必要とされる基礎学習技術の獲得、社会人としてのマナー講座、学校の各施設の使用方法などである。

○2014年(平成26年)度入学生から、医療的ケアが新たな科目として導入された。講義50時間以上では、実時間52.5時間を確保し、演習5種目5回の実施評価については、学生の練習時

間を確実に設けて技術取得の時間を確保した。

③教育方法の工夫・開発などが実施されているか

○アクティブラーニング手法の研修や公開授業の実施によって、教育方法の改善に向けて取り組んでいる。その結果、今年度から学生への授業アンケートに「学生同士の討論やグループワークなどを取り入れる工夫が見られた」の項目を新たに取り入れたところ、前期の授業アンケートでは、4段階評価では2.95(全教科平均)となり、後期の授業アンケートでは3.01(全教科平均)となり、学生は、だいたい当てはまると評価している。

④関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか

○外部講師を招聘した特別講座を保育科で11回、介護福祉科で20回実施した。また、保育科では、教育実習終了後の報告会に関係幼稚園の実習指導者を招き、実習等における講評をいただき、次の実習につなげている。そして、介護福祉科では、2年生の卒業論文発表会を、卒業研究のアンケート調査の協力を得た施設職員、学生保護者等を招いて実施している。

⑤授業をよりよく改善していくための授業評価はあるか

○授業改善に向けた取り組みとして、6月、12月に1週間の授業公開週間を設定し、全ての授業を対象として、専任教員が互いの授業を参観し、授業内容、アクティブラーニングを取り入れた授業の進め方等について評価を行った。

○学生による授業評価を前期・後期の授業最終日に実施している。今年度は、マークシートによる授業アンケートを導入し、集計結果を早期に全担当者に返却することによって、今後の授業について改善を図るようにした。特に、専任教員については、評価結果に基づいて、管理職と個別面談を行い、各自の課題や授業の取り組みについて確認、検討を行った。

⑥実習先、就職先からの評価を取り入れているか

○実習先訪問や就職先訪問での施設長や実習指導者の意見、実習先の実習指導者等との反省会・懇談会で出された意見を次年度の教育活動に活かしている。

⑦資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか

○幼稚園教諭や保育士、介護福祉士の資格及びこれらに関連する資格とともに、職業人として必要な基礎的な知識や技術を身につけるための漢字能力検定試験や日本情報処理検定協会の各種検定の受験についても、年2回実施している。検定試験対策として、事前に受験対策講座の時間を設定し、また、過去問題集を貸し出しするなどきめ細かな支援をした結果、今年度は受験生が38名増加した。今年度の各種検定結果(1級から3級)は、次のとおりである。漢字能力検定試験受験者数48名(合格率58%)、文書デザイン検定受験者30名(合格率70%)、情報処理技能検定受験者52名(合格率77%)、パソコンスピード検定受験者29名(合格率48%)、プレゼンテーション作成検定受験者17名(合格率88%)、合計受験者数218名(昨年度180名)である。

⑧教員の資質向上、指導力向上のための取組が行われているか

○昨年に引き続いて、FDに先進的に取り組んでいる大学から講師を招聘し授業手法向上に向

けた研修会、多様化する学生の状況に対応した学生理解を深める研修会、若者を取り巻く課題である「薬物乱用防止」に関する研修会などを全員参加で開催した。

○研究体制の充実を図るため、「研究紀要」第2号、第3号を発行した。

評価

評価の観点	評価
① 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	適切
② 教育理念・育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	適切
③ 教育方法の工夫・開発などが実施されているか	適切
④ 関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	適切
⑤ 授業をよりよく改善していくための授業評価はあるか	適切
⑥ 実習先、就職先からの評価を取り入れているか	適切
⑦ 資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	適切
⑧ 教員の資質向上、指導力向上のための取組が行われているか	適切

3 課題

③ 学生の授業や実習指導に関する理解度・習熟に格差があり、個別の対応が必要となるケースが増えていることから、適切な指導方法の工夫や開発が必要である。

基準4 教育成果

1 取り組み状況

①就職率の向上が図られているか

○充実した就職指導を徹底するため、就職指導委員会を開催するとともに、就職に関する各種会合にはできる限り参加し、確かな情報を得て学生への就職指導を行っている。クラスアワー や特別講座を通して就職に向けての意識づけを行うとともに、クラス担任との面談を通じて基本的な心構えを持たせることとしている。今年度は、就職相談室での個別相談を7月1日から実施し、そこに就職情報の検索用パソコンを8月1日から設置している。就職率は、4月1日現在で100%である。

○学生に対する、モバイル機器利用による求人情報提供のシステムを導入し、2013年11月22日から運用している。

○就職後における課題を明らかにすることにより、教育内容の充実・改善に活かし、就職率だけでなく、定着率の向上を図るため、就職先訪問や就業状況アンケート(8月)を行い、就職した卒業生の勤務状況や卒業生に対する評価について現状の把握に取り組んでいる。

○希望する学生に公務員試験受験対策として週1回の特別講座を実施している。今年度、公務員等採用試験合格者は4名である。

②資格取得率の向上は図られているか

○本校は文部科学省及び厚生労働省の認定校であり、学生は卒業と同時に保育士資格と幼稚園教諭免許、介護福祉士免許が取得できる。これらの資格・免許以外に、社会人や職業人としての基礎的な知識や技術を身につけるため、漢字能力検定試験や日本情報処理検定協会の各種検定（情報処理検定、文書デザイン検定、プレゼンテーション作成検定、パソコンスピード認定）の受験を奨励し、合格者には奨励金を支給している。

③退学率の低減が図られているか

○学生の欠席状況などの迅速な把握とともに一定数以上の欠席が生じた場合等には管理職とクラス担任等が密に連携し、指導体制を強化する等、退学率の低減を重点課題に掲げ、取り組んだ結果、2011年度の退学率は8.1%、2012年度は6.8%、2013年度は6.3%、2014年度は5.5%で、年々減少してきたが、2015年度は9.3%で増加している。

④卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか

○卒業生の現況に関する情報収集は、就職先・実習先訪問を通して行っているが、社会的な活動や評価を十分に把握できていない。

2 評価

評価の観点	評価
① 就職率の向上が図られているか	適切
② 資格取得率の向上は図られているか	適切
③ 退学率の低減が図られているか	やや不適切
④ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	適切

3 課題

- ③ 平成27年度の退学率が増加しており、組織をあげて退学率の低減に取り組む必要がある。

4 今後の改善方策

- ③ 退学した学生の要因を検証するとともに、特に課題のある学生について、学科の中で定期的に話し合う機会をもつ。

基準5 学生支援

1 取り組み状況

①進路・就職に関する体制は整備されているか

○就職指導部とクラス担任の連携により、個別の進路相談を重ねて就職指導を行うなど、就職支援活動を行っている。

②学生相談に関する体制は整備されているか

○クラス担任制を導入することにより、学生生活に係る全般的な悩みは、担当教員や学科長が相談を受け適宜対応することとしている。学生相談室にカウンセラーを配置し、週2回相談日

を設けているが、学生への周知をさらに図り、利用度を高めている。今年度は、延べ 49 名(昨年度 48 名)が利用している。

③学生の経済的側面に対する支援体制が整備されているか

○本校独自の奨学金制度をはじめ日本学生支援機構や都道府県、民間企業等の奨学金制度が利用できるほか、日本政策金融公庫や民間の金融機関の教育ローンも整備しており、これらは有効に機能している。また、経済的理由により修学が困難な生徒に対して学業を継続させるために、新たに関西保育福祉専門学校「授業料の減免に関する規程」を定め、今年度は4名の学生に授業料の減免を行った。

④課外活動に対する支援体制は整備されているか

○本校では、バスケットボールやバレー、バドミントン等の体育系のクラブや合唱部等の文化系クラブが活動しており、日々の活動とともに尼崎市で開催されるイベント等への参加等も積極的に行っている。これらのクラブ活動に対しては、担当教員(顧問)を配置し指導等を行っている。また、本校には実習施設等からのボランティア募集が多数あり、学生指導部が窓口となって指導・助言している。

⑤保護者と適切に連携しているか

○2013 年度入学生から、入学前に保護者会を開催し、保護者の理解と協力を得られるよう、学校の教育方針や履修方法、学校生活について説明を行い、連携を図った。保護者からも好評であったことから、今年度も継続して行った。

○学生の学修状況について、学生・保護者・担任による三者面談や電話連絡などを随時行い、保護者との連携を図っている。特に指導を要する学生については、学生面談、三者面談時に担任と学科長で学生支援体制を整え、保護者との連携を図っている。

⑥卒業生への支援体制はあるか

○卒業生の現況情報、「メールアドレスデータバンク」構築のため、ダイレクトメールを 6 月に送付し、卒業生名簿の改正を行った。

○卒業生に対してはパソコンで検索できる求人情報提供のシステムを導入し、2014 年 6 月から運用している。

○卒業生相互の交流や情報提供の場として、2012 年～2014 年には同窓会と共に全学科合同の卒後研修会を開催してきた。今年度は、学院祭2日目、11 月 1 日に卒後研修会を開催した。

2 評価

評価の観点	評価
① 進路・就職に関する体制は整備されているか	適切
② 学生相談に関する体制は整備されているか	適切
③ 学生の経済的側面に対する支援体制が整備されているか	適切

④ 課外活動に対する支援体制は整備されているか	適切
⑤ 保護者と適切に連携しているか	適切
⑥ 卒業生への支援体制はあるか	適切

基準6 教育環境

1 取り組み状況

①施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか

○創立後 63 年が経過する中で、これまで、計画的に施設や設備、備品等の近代化を進めてきた。平成 27 年度は、学生(1年生)の受講用机及び椅子の更新をはじめ、視聴覚室の視聴覚機器の全面更新、東館及び西館揚水ポンプ等の取り替え、電子ピアノの更新(本年度の更新により、電子ピアノは全て同一機種に統一された)を行った。

また、設備・設備改修や備品の更新に際しては、学生アンケートを参考にするなど、学生のニーズをできるだけ活かすこととしている。

②防災に対する体制は整備されているか

○本校の防災体制については「関西保育福祉専門学校防災マニュアル」を策定し、内容を毎年見直し更新するとともに、本マニュアルに基づき、11 月には南海地震による津波を想定した防災訓練を全学生と全教職員の参加の下に実施した。

2 評価

評価の観点	評価
① 施設・設備は教育上の必要上に十分対応できるよう整備されているか	適切
② 防災に対する体制は整備されているか	適切

基準7 学生の募集と受け入れ

1 取り組み状況

①学生募集活動は、適正に行われているか

○「学校案内パンフレット」などの広報物及びガイダンスなどの対面広報活動の内容や手法については、常に、「真実を伝えているか」、「明確であるか」等の視点でチェックすることとしている。

○広報活動では、本校や業者が実施する各種調査の「進学先決定のための項目」などを参考にし、志望者や保護者が求める情報を公表している。また、その内容や手法については、各種アンケートを実施して、常に課題の発掘に努めている。

○より多くの志願者を獲得するために、本校の強みなどが理解されるよう、差別化を図った募集活動を教職員全員で推進している。その内容や手法については、市場調査や競合校について

の調査・研究、さらには本校独自の「入学者調査」や「卒業者調査」等を実施し、より効果的な募集活動が実施できるように努めている。

○学生募集活動は、各種の調査データ、本校の募集活動及び入学選考に関するデータ等を経年的に蓄積、管理し、これを分析したうえで、より効率的かつ効果的な展開を目指している。

②学生募集活動において、教育成果は正確に伝られているか

○学校行事や地域イベントへの参加など教育活動、資格取得実績や就職実績などの教育成果については、できる限りデータを公表するなど正確を期するとともに、「学校案内パンフレット」や「公式ホームページ」などの広報媒体に最新情報を掲載している。

③入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか。

○入学選考については、学生募集要項に詳しく掲載し、すべての入学試験において「面接試験」を実施することを志願者に公表している。

2 評価

評価の観点	評価
① 学生募集活動は、適正に行われているか。	適切
② 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。	適切
③ 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	適切

基準8 財務

1 取り組み状況

①財務情報公開の体制整備はできているか

○本校は、学校法人浜名学院監事による監査とともに、私立学校法に基づく公認会計士による外部監査を実施している。

○財務情報は、ホームページで浜名学院全体の財務状況を公開している。

2 評価

評価の観点	評価
① 財務情報公開の体制整備はできているか	適切

基準9 法令等の遵守

1 取り組み状況

①個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか

○学校法人浜名学院では、「個人情報の取扱に関するガイドライン」を設けており、本ガイドラインに基づき、個人情報の保護に努めている。

②自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか

○2012 年度は自己評価委員会が学校運営組織に位置づけられ、「専門学校等評価基準」に基づいて本校の現状を点検・評価した。その結果を「平成24年度学校自己評価報告書」としてホームページで公表した。また、新たに組織された学校関係者評価委員会で報告書について評価が行われた。委員会での意見を踏まえ、様式や項目を見直し、2013 年度は「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づいて自己評価を行い、次年度の事業計画に盛り込んだ。2014 年度は、2014 年 6 月に実施された学校関係者評価委員会での意見を踏まえて、自己評価を行った。2015 年度は、2015 年 10 月 22 日に実施された学校関係者評価委員会での意見を踏まえて、自己評価を行う。

2 評価

評価の観点	評価
① 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	適切
②自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	適切

3 課題

- ① これまで浜名学院「個人情報の取扱に関するガイドライン」に基づき個人情報の保護に努めているが、より徹底を図るため本校の「個人情報保護管理規程」を制定する必要がある。

基準10 社会貢献・地域貢献

1 取り組み状況

- ①学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか
- 本校は、国土交通省近畿地方局兵庫国道事務所との締結に基づき、本校前の国道 2 号線の歩道に設置された緑地帯への緑化を社会貢献活動の一環として実施しており、所属する尼崎市花のまち委員会と連携して四季を通じて花々による美化環境の整備に努めている。また、本校周辺道路の清掃についても毎日実施している。
- 近隣の福祉施設等からの要請を受けて、駐車場施設や教育備品の貸し出し等を行っている。
- 兵庫県が推進する「離職者等再就職訓練事業」を、社会的役割を果たすものとして、受託している。
- 現場で働きながら国家資格取得を目指す人への受験対策として介護技術講習会を休日コースと平日コースとして実施した。
- 兵庫県立阪神昆陽特別支援学校のキャリア教育ネットワーク会議の委員及び出張授業について、昨年度に引き続き受託し、委員及び講師を派遣している。
- 高等学校の職業教育やキャリア教育の一環としての「総合学習の時間・授業」に本校教職員を派遣して、高校生に対して保育福祉分野の仕事の説明や進路相談などを行っている。
- 「高等教育機関への学校見学」という高等学校の校外学習があり、本校では、高校生に対してキャンパスや施設設備の見学や体験授業などを実施し、専門学校の教育などを説明している。

- 兵庫県専修学校各種学校連合会が主催する「職業体験、インターンシップ、職場見学」に協力して、高校生の進路選択並びに中学生の職業体験に関する講座などを担当している。
 - 尼崎市が主催する「こどものためのあまらぶワークショップ」に学友有志と教員が参加し、けん玉・お手玉・折り紙などの昔の遊びを指導している。
 - 毎月1・2回、学生が本校周辺道路のゴミ拾い等、清掃ボランティア活動を実施している。
 - 兵庫県立尼崎病院跡地利用事業で社会医療法人愛仁会が平成28年4月から尼崎だいもつ病院を開設することになった。法人及び尼崎市社会福祉協議会から地域住民が主体的に参画する地域包括ケアシステムの構築・推進を目的に病院の1階に「ふれあい広場」を設置するためのワークショップへの参加依頼があった。ふれあい広場のコンセプトワークに学生有志と教員が参加し、広場作りのコンセプト、スペース構成、ネーミングなどグループワークで積極的に意見を出した。次回以降もワークショップに参加し、4月からの広場展開にも企画提案していく。
- ②学生のボランティア活動を奨励、支援しているか
- 毎年多数寄せられるボランティア募集情報を学生指導部が集約し、校内掲示板にて情報提供するだけでなく、クラス担任からも情報提供するなど、学生の自主的参加を推奨している。

2 評価

評価の観点	評価
①学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	適切
②学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	適切